

Smiles

教科としての英語スタート

- ◆外国語科指導のポイント／金森 強 (文教大学教授) ②
- ◆子どもたちの世界を広げる小学校外国語科の授業づくり
／阿部優子 (元横須賀市立諏訪小学校校長) ④
- ◆おすすめしたい ICT の活用 —より効果的な授業のために—
／奥村真司 (武庫川女子大学准教授) ⑥
- ◆授業を軌道に乗せるために 4 月から
取り組みたいこと／新川美紀 (伊是名村立伊是名小学校教頭) ⑧



特集

授業実践

連載

- 複式学級での外国語活動・外国語科の取り組み
—これまでとこれから—
／久保 稔 (名寄市立中名寄小学校教諭) ⑩

- ◎世界の国から Hello!
第4回：アメリカ編／大井美紗子 ⑫

ONE WORLD Smiles
教師用指導書・準拠教材の
ご活用のために ⑭



教育出版

※ E (e) の文字から始まる英単語を探してみましょう。

外国語科指導のポイント

金森 強 文教大学教育学部（英語専修）教授



横浜国立大学教育学専攻科（英語教育）修了（教育学）。愛媛大学、松山大学、関東学院大学を経て、2016年4月から現職。第四期中央教育審議会委員、日本児童英語教育学会理事、日本実践英語音声学会理事。

音声指導を大切に

小学校外国語科の目標として、「外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどについて、日本語と外国語との違いに気付き、これらの知識を理解するとともに、読むこと、書くことに慣れ親しみ、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けるようにする。」があります。ただし、読むこと、書くことの前には、まず十分な英語音声への慣れ親しみがなければ、英語の音韻構造や音声特徴の理解、技能の習得は期待できません。音声言語としての指導が足りず基本的な能力が十分に身につけていない場合、文字を見れば理解できるが「聞く」だけでは分からないとか、英語を聞いて即興でやり取りをするという力は身につけていないという、これまで行われてきた英語教育の失敗を繰り返すだけになってしまいます。

外国語をそのまま真似して発話することに対する抵抗が少ない小学生の頃にこそ体験してほしい指導は、英語の音声に十分慣れ親しみ、簡単な表現を用いてALTや友達と関わり、コミュニケーションの大切さに気づく体験をたっぷりともつことです。その際、聞く・話す必然性のある活動を行い、子どもたちに目的をもってしっかり聞いたり話したりする時間を与えることが肝心になるのです。

教科書単元冒頭のLet's Watchのコーナーで、映

像とともに聞く活動を行ったり、映像を消して音声だけを頼りに内容を聞き取る活動をしたりすることは、有効な活動と言えるでしょう。視聴する前に大まかな内容のバックグラウンド情報を与え、聞き取る内容を伝えておくことも、聞き方に影響を与える指導のポイントです。

意欲を高める授業・活動づくり

発信した内容に対して友達が認めてくれたり共感してくれたりすることで、外国語で自身の思いや考えを伝えることへの不安が和らぎます。また、ペア活動では相手や先生からの反応があることで、自己表現ができたことへの達成感を得ることができます。このような体験を通して、学級の一員として受け止められていること、先生が自分のことを理解してくれていることを実感でき、学級の仲間と学ぶことや学校の楽しさも感じられるはずです。

記憶することが得意な子どもや学校外で英語を学んでいる子どもにしかできない難しい活動を行うのではなく、基本的な知識と技能を活用しながら、多様な場面設定を行い、それぞれの個性を生かした自己表現の機会、表現できたという達成感をもたせ、友達との関わりを通じた自尊感情の育成につながる時間にする工夫も忘れないようにしたいものです。

学校・先生や地域の情報を効果的に利用しながら、教科書の活動を各学校でカスタマイズして使用するようにして、興味のある話題について友達と関わりながら、自尊感情をもち、他者を尊重する機会を設定し、学級づくりにもつなげていけるとよいでしょう。

他教科との連携の視点をもつ

全教科を担当する担任教師ならではの英語の指導・教材開発が進められており、そこには多様な優れた教材や指導例が見られます。発達段階にふさわしい、子

どもたちに身近な題材を取り入れることで、外国語を学ぶこと、コミュニケーションを取ること、自身と異なる文化にふれることが可能になります。

また、他教科で学んだ内容・知識を紡ぎながら、ものの見方や考え方が深まる点において、他教科との連携に大きな期待をすることもできます。

中学年までの教科などで学んだ内容を、外国語科における言語活動を通して振り返り、再構築しながら表現活動を行い、結果として知の立体化につながることもあるはずですが。

カリキュラムの系統性や計画性を重視し、外国語科以外の教科の内容に応じて、どの時期にどのような活動を実施するのか、授業形態や実施時期までを含めて丁寧に準備しておきたいものです。このカリキュラム・マネジメントの工夫によっては、他教科で学んだ内容を有機的に外国語科と結び付けることができるはずですが。また、学校行事などとの関連も大切にしながら、教科書を効果的に使いたいものです。

文字指導は急がず丁寧に

文字指導の基盤には、アルファベットの音と文字への理解が不可欠です。英語を母語とする子どもたちは、文字を読んだり書いたりする学習を開始する前に、日常生活のなかでアルファベットの音や文字を習得するための大量のインプットの時間をもっています。これらのインプットは、当然、その後の文字を利用した学習を効率的に進める土台となります。

一方、日本で外国語として英語を学習する子どもたちは、インプット量が限られている事実を無視することはできません。十分な音声によるインプットなしに文字中心の指導を行うことで、子どもたちに文字に対する負担感や苦手意識をもたせることは避けたいものです。アルファベットの音や文字の認識のための指導は丁寧に時間を取って行いましょう。ペンマンシップで順番にアルファベットを書くような活動ではなく、音声として十分に慣れ親しんでいる語句や略語(DVD, CD, USAなど)を読んだり書いたりする楽しい活動の実施が望ましいと言えます。

また、子どもが書いた英文などは、読んでくれる人が増えるだけで書き方も変わるはずですが。教師が読むだけでなく、教室や廊下に掲示するなど、工夫をしたいものです。授業で用いたワークシート*を各自の机の上に置き、友達の書いたものを読んで回りながら友達の発想のおもしろさや丁寧な文字の書き方などを意識させる「お散歩リーディング」という活動は、振り返りの活動として効果的です。

*ONE WORLD Smiles 巻末ワークシートや指導書『ワークシート編』「授業用ワークシート」参照

気持ちを込めたあたたかいコミュニケーションを

外国語科において、「生きて働く知識・技能」とは、単に英語のキーセンテンスやフレーズを覚えて言えるようになることではありません。目的、場面、状況において適切に働くことができる言語使用になってこそ、その力がついたと言えるはずですが。ストップウォッチで時間を測りながら、英語をいかに速く発話するかなどのスピードを競わせるような活動はもはや必要ありません。また、ゲームの勝敗のためだけに英語を聞いたり言ったりする活動ばかりでは、友達としっかりと関わることを意識したり、丁寧に相手に伝えるための姿勢が身についたりするはずではありません。主体的に学びに向かう姿勢を育成するためには、コミュニケーションの取り方(communication strategy)や学ぶ方法(learning strategy)を自己調整しながら、自らの能力を高めている子どもの変容の姿が見られる授業が必要ですが。

言語活動を行う際、必然性のある活動にするためには、まず子どもたちに「誰とコミュニケーションを行うのか」、次に「何のためにコミュニケーションを行うのか」、更に、意図することを「どのように成し遂げたいのか」を意識させることが大切です。その過程を通して、相手への配慮をしながら、必要となる言語材料を意識し、コミュニケーションや学びの見通しをもつことができるからです。丁寧にゆっくり、相手に伝わるような気持ちを込めたあたたかいコミュニケーションを目指す姿こそが、学びに向かう主体的な姿と言えるはずですが。

子どもたちの世界を広げる小学校外国語科の授業づくり

阿部優子 元横須賀市立諏訪小学校 校長



神奈川県横須賀市において中学校英語教員を歴任。横須賀市教育委員会指導主事を経て、横須賀市立諏訪小学校校長を務める。現在、横須賀市教育研究所に勤務。

はじめに

移行期間も終わり、いよいよ小学校高学年で外国語科の授業が始まります。外国語を聞いたり話したり読んだり書いたりする活動を通して、子どもたちがコミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成することを目標に、日本中で担任の先生が、時にはALT等と一緒に授業を行い、子どもたちの世界を大きく広げていくことを思うとわくわくします。

小学校の先生だからこそできる授業

外国語の授業に自信があると答えた小学校の先生は、全体の約3割というアンケート結果がありました。私は謙虚すぎると感じました。国語や算数などに比べ、外国語は語彙や発音など特別な知識や技術が必要との思い込みが強すぎるからではないかと思います。技術面の自信のなさが先行して、コミュニケーションの楽しさを感じさせたり、コミュニケーションの態度を育成したりすることの重要性を捉えにくくなっているのではないのでしょうか。

私が勤務していた小学校では、先行して外国語の授業を実施していましたが、当初苦手意識があると言っていた先生も、研究が始まってからはそれが感じられないほど生き生きと授業をしていました。授業が上手な小学校の先生は、どの教科でも同じように児童の力を伸ばすことができるのだと思います。

小学校の先生は、低学年から高学年までそれぞれの発達の段階にふさわしい指導ができます。すなわち

授業が上手いのです。子どもと過ごす時間が長いので、それぞれの子どものことをよく理解しています。成長を促す適切な声かけが上手です。それぞれの子どもを意識した目標到達までの細かなステップづくり、身近な教材選び、意欲を引き出すきっかけづくりなど、上手な点がたくさんあります。

高学年で、隣接する中学校からネイティブスピーカーの先生を招いて授業をした時のことです。ある児童が、「〇〇先生のじゃんけん scissors の出し方がかっこいい」と、しきりに出し方の真似をして、scissorsだけでなく、rock, paperの発音まで上手になりました。担任はその場を捉えて、その児童の学習姿勢や学びを評価し、学級全体に共有させました。ふだん注意されることが多かったその児童は、このことがきっかけで学習に意欲的になりました。担任が外国語科の授業をする意味は大きいと思います。

必然性と相手意識のある授業

外国語活動は、聞いたり話したりする活動が中心でしたが、高学年の外国語科では読んだり書いたりすることも加わり、表現の幅が広がります。引き続き大切にしたいことは、それぞれの子どもが発する内容や気持ちにこだわることです。「だれに」「何を」「どんなふうに」伝えたいのか、「何を知りたいのか」などの素直な気持ちを大切に活動は、コミュニケーションを図る基礎をより強固なものにします。

授業の成功事例を紹介しましょう。5年生の時間表現の単元で、「ALTの〇〇先生を笑顔にする旅行プランを考えよう」というテーマで授業計画を立てました。子どもたちは班ごとに、身近なALTのことを一生懸命に観察し、思いやりのこもったプランを立て、提案しました。

最近元気がないように見えるALT。「ホームシックなのかな」「〇〇先生は日本の温泉が好きだと言ってたよね」「どうしたら喜んでくれるかな…」事前にALTの好きな食べ物を聞き出し、行ってみたい場所、好き

なことなどについて取材をします。そして最終的には、大好物が食べられ、温泉でリラックスできるような場所を選んで、班ごとにALTのための旅行プランを思いを込めて発表しました。このように温かいプランを提示され、ALTは笑顔にならないはずがありません。めあてがしっかり達成でき、ALTの笑顔を見た子どもたちも笑顔になる、素敵な授業でした。

「誰かを笑顔にする」活動はさまざまな単元で応用が利きます。子どもの思考を働かせ、主体性を刺激し、総合的に判断する場面を多く設定できます。「誰かを喜ばせる」というめあてが、もっと聞きたい、話したい、読みたい、書きたい気持ちにさせ、コミュニケーションの質をより豊かにします。

子どもどうしの関わりを豊かにする授業

子どもたちは反復練習にも楽しく取り組みますが、すぐに飽きてしまいます。未知の情報、意外な情報が大好きな子どもたちには、その子どもしか知らない情報を活用して授業を進めるとうまくいきます。

色がテーマの授業でした。子どもたちは次々に自分の好きな色をクラスの仲間に伝えていきます。青、紫、ピンク、白、黄…、文字通りカラフルな色が発表されるなかで、ふだんあまり口数の多くない児童が小さな声で、“I like black.”と言いました。そういえばその児童はいつも黒い服や靴を身に着けています。“Why?”すかさず質問が来ます。“Because I like rugby. I like All Blacks. チームカラーは black.”子どもたちは、一生懸命に答えるその児童をじっと見つめ、理解を深めます。「サッカーじゃなくてラグビーなんだ」「オールブラックスってどこの国のチームだけ? ニュージーランド?」「だから筆箱も黒なのか」…今まで以上に友達のことがわかり、子どもたちの満足げな表情が印象的でした。振り返りカードには、「好きな色の理由を知ることができてよかった」「〇〇さんのことがわかってよかった」「知らなかったことがわかってうれしい」などの記入がありました。

学年・学級経営につながる授業

小学校では、特別活動や道徳などの時間、また養

護教諭による保健指導などで、「ちくちく言葉」と「ふわふわ言葉」を扱うことがよくあります。相手の心にちくちく刺さる言葉と、相手を気遣って柔らかい気持ちにさせる言葉の違いに気づかせ、自らの行動につなげ、子どもたちのコミュニケーションの質を高めるための取り組みです。外国語活動や外国語の授業では、明るいトーンでほめたり、励ましたりする肯定的な表現が多いため、子どもたちが文化的な背景も学んだり感じたりすることができます。子どもたちの表情が明るくなり、表現力も豊かになります。

私が校長として勤務していた学校は、繁華街に位置し、学区内に在日米海軍基地があるため、中国、フィリピン、韓国などの外国籍の子どもや、両親のどちらかがアメリカ人やイギリス人、ロシア人という、外国につながりのある子どもが多く在籍する学校でした。隣接する中学校と、同じ中学校区の小学校1校、市立高校1校を含めた4校で、文科省の外国語教育の研究開発校として3年間一緒に研究を行いました。

研究の初期段階で、外国語に限らず「コミュニケーションの質」に注目し、学校全体で「ふわふわ言葉」を使っていこうということになりました。「ふわふわ」と学校名の「すわ」の響きが似ているため、教頭先生が名づけ親で、「ふわふわ」を「すわふわ」にして、学校全体で日本語でも英語でもどんな言語でも「すわふわコミュニケーション」を目指すことにしました。

子どもたちは、日本語でも英語でも、相手を尊重して伝え、いい気持ち、優しい気持ちになる「すわふわ言葉」を探して、教室に掲示しました(右写真)。そのうちに、言葉だけでなく態度も大事だと気づき、「すわふわ態度」も含め、「すわふわコミュニケーション」を充実させました。学年で取り組み、授業以外に、朝・帰りの会でも活用しました。各学級の掲示物には、子どもたちが選んだ「すわふわ言葉」が日本語や英語、中国語でも書かれています。Hello! Nice! Good! Wow! Very good! I like it! Thank you! Awesome! I see! Sorry! 加油! などです。学年・学級経営や外国語コミュニケーションの、固く温かい土台になりました。



おすすめしたいICTの活用 —より効果的な授業のために—

奥村真司 武庫川女子大学教育学部 准教授



2000年、米国ミシガン州立セントラルミシガン大学大学院英語教授法修士課程修了。2016年、オーストラリア、ビクトリア州立モナシュ大学大学院言語文化文学研究科博士課程修了、応用言語学博士。

ICTを活用した外国語教育

文部科学省は小学校英語教育の充実に向けて、ICTの活用を推進しています。最近では、GIGA (Global and Innovation Gateway for All) スクール構想が立案され、児童・生徒1人1台のコンピュータとすべての小・中・高等学校・特別支援学校などに高速大容量の通信ネットワークを完備することが盛り込まれています。

小学校外国語教育におけるICTの活用により、教師の準備や指導の効率化、多様な教材やコンテンツの提供、児童の個人差に対応した教育機会の提供、児童一人一人の主体的な学び、英語学習への興味・関心、意欲の向上が期待できます。

本稿では、小学校外国語教育において、先生方が実践しやすいICTの活用方法について紹介します。

オンラインのウェブサイト教材

主に英語圏のオンライン英語学習サイトには、小学校外国語活動・外国語科の授業に、無料で活用できるものがいくつもあります。はじめに、児童がアルファベットに親しむことのできるサイトをいくつか紹介します。

1) ABC order (アルファベットの順番)

<http://learningplanet.com/act/abcorder.asp>

2) Alphabetical order (アルファベットの順番)

<https://www.abcya.com/games/alphabet>

これら2つのコンテンツでは、アルファベットの順番をゲーム形式で学習することができます。音声も付いているので、一つ一つのアルファベットの音も確認することができます。

3) KidzType (アルファベットタイピング)

<https://www.kidztype.com>

教科書の内容と連携させ、アルファベットのタイピングを、KidzTypeを使って行うことで、児童が楽しみながら文字学習を行うことが可能になります。

他には、さまざまな英語学習に使える動画を観ることができるYouTubeを活用する

ことも考えられます。例えば、「English songs for kids, colors」というキーワードで検索すると、色を題材としたたくさんの子どものための英語の歌を見つけることができます。また、検索キーワードの最後の言葉を別のトピック(例: numbers, animals, fruits)に変えることで、そのトピックに関する多くの歌が表示されます。

YouTubeでは、検索キーワードがはっきりわかれば、小学校英語に関連する多種多様なコンテンツを見つけることができ、授業に活用できます。

ICTを活用した自作教材

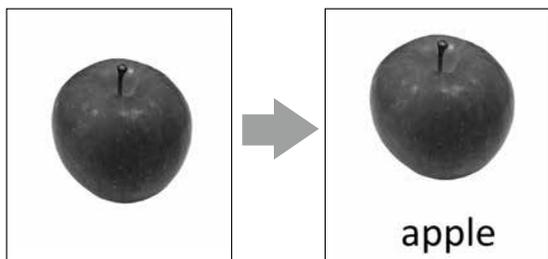
ICTを活用した自作教材は、教材準備や使用の効率化につながるとともに、先生方が担当する児童の実態に応じた指導にも活かすことができます。

ICTを活用した教材作成では、PowerPointなどのプレゼンテーション用ソフトの活用が挙げられます。



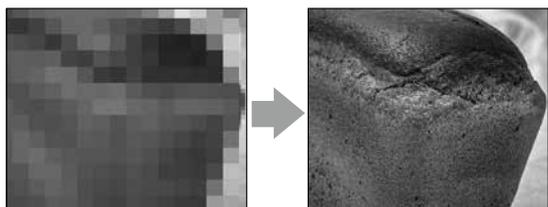
●キーボード入力を念頭においた教科書紙面 (ONE WORLD Smiles 5, p.19)

例えば、PowerPoint に絵や写真を貼り付けるだけで簡単に絵カードを作成することができます。さらには、アニメーション機能を使うことで、絵や写真を説明する文字を、時間差で提示することも容易にできます。



●パワーポイントでの文字提示

また、Windows のペイントでも簡単に行うことができますが、「GIMP」などの画像加工のフリーソフトを使うことによって、写真や絵を加工することができます。この機能を使うことによって、例えば、物の絵や写真をモザイク化し、What's this? クイズを作成することが簡単にできます。



●画像加工ソフトを活用した What's this? クイズ例 (パン)

児童による ICT 教材作成

教師が ICT を活用して英語教材を作成することを、授業中の児童の活動に応用できます。児童が画像加工ソフトを使って、グループ毎に What's this? クイズを作成し、クラスで発表させることによって、児童が英語を発話する機会につながります。

また、行きたい国の旅行案内を PowerPoint で作成し、プレゼンテーションを行う活動なども考えられます。PowerPoint を活用したプレゼンテーションでは、資料作成、発表、友達の発表を聞くという一連の活動のなかで、4 技能を扱うことが可能となります。

教育用ソーシャルネットワーク (SNS) の活用

Google Classroom や Edmodo (エドモド) などの教育用 SNS を活用した活動は、文字を使ったコミュニケーション活動を可能にします。教育用 SNS は、教師から配付されたグループコードによって登録した学習者のみがオンライン上で活動するので、セキュリティの面で安全です。教育用 SNS では、グループの掲示板に文字を書き込むことができるだけでなく、写真や動画を掲載することもできます。また、グループコードを共有することによって、他のクラスや学校の児童と教室の壁を越えたオンライン学習コミュニティを形成し、児童どうしが簡単に交流できるようになります。

例えば、海外の小学校のクラスと教育用 SNS 上でつながり、習った英語を使って好きなものを紹介したり、相手に日本文化を紹介したりする活動などが考えられます。このように、実在する相手に対して英語を使う必然性のあるコミュニケーション活動は、児童の英語学習への関心・意欲を高めるよい機会となるでしょう。



●教育用 SNS 「Edmodo」のグループページ例

おわりに

ICT を活用した外国語教育は、教育の効率化だけでなく、グローバル化がますます進む次世代を生き、そして活躍する児童一人一人の能力と可能性を最大限に引き出すものとなります。

次世代の人材育成として、ICT を活用した小学校英語教育に取り組んでみてはいかがでしょうか。

授業を軌道に乗せるために4月から取り組みたいこと

あらかみ き
新川美紀 沖縄県伊是名村立伊是名小学校 教頭



沖縄県那覇市及び浦添市の小学校教諭、琉球大学教育学部附属小学校教諭を経て、平成30年度より現職。平成16年より校内研主任、市教科指導員、専科教員を兼務し、外国語授業づくりに従事。

新学習指導要領の完全実施に伴い、中学年の「外国語活動」と高学年の教科「外国語科」が、4月から始まります。高学年の教科書は各社とも写真やイラストが多用され、シールやワークシートも付いていて、見ているだけでワクワクします。小学校で初めて使う教科書ですから、どのように扱い、どう指導するのかと不安も感じますね。できるだけ早く他教科同様に外国語の授業も軌道に乗せていくために何をしたらよいか考えてみたいと思います。

まずは、何よりも現状把握

【学習内容は何か】

外国語の教科書には、指導書やCD・DVD資料、ワークシート、絵カード、デジタル教科書などが準備されています。初めてだからこそ、ぜひ4月初めに2学年分（できれば中学年から4年分）の教科書や教材・教具を全教員で確かめ合しましょう。各学年の内容の違いや系統性がわかり、どんな言語材料をどの時期に扱うのかを知ることが目的です。自校の児童に内容やワークシートなどが合うのか、授業を進めるうえで不足していることについても意見交換をします。

【何を経験しているのか：年間を見通す】

移行期間中は地域によって指導時数や指導体制（担任単独・TT・専科教員の有無など）が異なるため、指導書の計画通りに進めた場合、学校によっては児童の負担過重が想定されます。児童が移行期間に *Let's Try!* と *We Can!* の内容を実際にどれだけ指導され、

どの英単語や表現が取り扱われたのか把握し、前年度の指導状況を担任、ALT、専科教員等で共有します。前年度に使用した指導案（授業プラン）を利用すると、指導経緯がわかるので、単元に必要な予備知識や経験に不足があれば中学年の内容が過重とならないよう配慮しつつ、授業に追加します。

また、年間を見通して教科書を見ることで各単元の系統性や連続した学習があることに気付くでしょう。教員も年間指導の見通しをもち、自校に合った授業づくりや各自のよさや特技を活かした活動を計画的に行えるようにしたいものです。

【教材・教具の整理】

移行期間に使用した絵カードや教材・教具が各学校にあるはずですが。絵本や音声教材は今後さらに活用する幅が広がります。ファスナー付きの袋やケース、教室のロッカーなどを利用してコーナーを設けたり、全教員で単元や種類ごとに再整理して表示し、誰もが使えるようにします。必要なICT機器の整備や購入についても管理職と相談して早めの対策が必須です。教具の使い方について話しながら整理すると、新たな授業づくりのアイデアも出てくるでしょう。

【掲示物などの文字表示の確認】

教科書でもアルファベットの字体は、aはa、gはgのようにユニバーサルデザインが取り入れられています。高学年では文字を書き写す活動もあります。掲示物の字体についても校内で共通確認しておくなどの児童への配慮が必要になるでしょう。また、アルファベットの文字認識と書く活動の支援として、4線上に文字を示すことが大切です。下の写真はチョークを挟んで4線を引ける道具（チョークライナー）です。片手で簡単に黒板に4線が引けて、第3線の色を変えることもできます。



校内研修での取り組み

【Small Talk：教師の指導力向上を図る】

Small Talk
 高学年新教材で設定されている活動。
 2時間に1回程度、帯活動で、あるテーマのもと、指導者のまとまった話を聞いたり、ペアで自分の考えや気持ちを伝え合ったりする。

5年生…指導者の話を聞くことを中心。
 6年生…ペアで伝え合うことを中心。

未知語であっても場面の中で推測させてみる(思考力)

学習した英語を実際に使ってみる(定着)

Small Talk を行う主な目的
 (1) 既習表現を繰り返して、使用できるようにして、その定着を図る。
 (2) 対話の続け方を指導する。

(文部科学省「外国語活動・外国語研修ガイドブック」p.84～85,p.130～134)

教師の英語力や指導力向上のために校内研修を活用して英語を使う機会をもちます。上図の5・6年それぞれの Small Talk の説明、5～10分程度の模擬授業などを英語を使って見せ合い、互いの外国語授業に対する悩みやアドバイスを出し合しましょう。教員間のコミュニケーション向上や外国語教育への理解も深めることができ、授業改善に活かせます。

授業づくり・教材研究

【目指すのは何か。付けさせたい力は何か】

外国語の授業づくりで担任が考えること

ゲームは何をしようの前に...

1 目の前の子供につけたい力は何か...
 2 場面設定は...
 誰に? 何を?
 何のために? どうやって?
 3 考える場面はあるか?
 4 活動後の変容は?
 5 終わったらどこに繋がる学習?
 他教科・領域に広がる学習に

様々な必然性がでる活動にする!

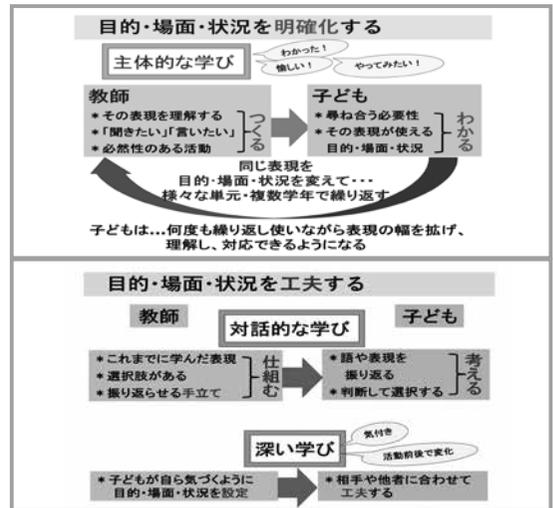
1 英語を使いたくなる?
 2 必要な英語表現を知りたい? 訊きたい?
 3 友だちと相談したい? 話し合いたい?
 4 伝え方を考えたいか?
 (順序・動作・声・内容)

これまでの授業実践において、上図のことを単元計画前に考え、外国語を他教科・領域などと関連させ、児童の発達段階や実態、時数制限などに応じて、総合的・横断的に単元構成を工夫したり、季節や学校行事に関連させたりしてきました。多角的に学ばせると学習の知的レベルが上がり、児童はもっている知識を積極的に結びつけながら学習するものだと感じました。

担任が ALT や専科指導員、同僚と自由に意見を申し合って教材研究をし、教科書に各自のアイデアを加味して授業づくりを愉しんでほしいと思います。

単元構想を練る際には思考・判断・表現する必然性のある目的・場面・状況の設定が大切です。まず単

元の終末にどのような言語活動を行うかを決め、逆算して各時の内容を決めるバックワードデザインで単元計画をしていくことをお勧めします。(下図参照)



また自身の授業をビデオや IC レコーダーで記録し、自分の癖や児童の表情、発話などを見取り、次時の授業づくりに活かすのもお勧めです。

【どんな振り返りをし、何を褒めていくのか】

活動の中間評価では、態度などの活動の善し悪しだけでなく、どんな質問や文の追加ができたかなど、より具体的に児童が個々に活かせる手立てや見通しをもった発言などを評価し、終末では児童の本時や単元での伸び・丁寧さ・想いを褒めたいものです。

【しっかり聞かせる：言葉に想いを乗せる】

授業づくりができて他教科などで日本語の指示が通らない学級は外国語のできるはずがありません。日頃からしっかり聞く指導の工夫が必須です。聞く活動から話す活動へ。話す活動も聞く活動につなげ、授業を、伝えたい想いを言葉に乗せて伝える機会にしたいものです。やって終わりではない、学びの広がりや学びの立体化(積み上げ)を目ざし、何かをやると必要な力がつく実感や、児童が見通しをもって取り組む授業づくりにぜひ取り組みましょう。

最後に、教師が愉しまなければ、児童が愉しいはずはありません。同僚と協働して、児童が学びを愉しむ授業づくりを目ざしましょう。



複式学級での外国語活動・外国語科の取り組み

—これまでとこれから—

■ 久保 稔 (北海道名寄市立中名寄小学校 教諭)

はじめに

中名寄小学校は、北海道名寄市にある、全校児童が18名で、3つの複式学級からなる完全複式の学校です。また、通学区域外からも通学できる特設校であり、豊かな自然や地域人材を活かした体験活動などに積極的に取り組んでいます。

本校では、外国語活動は「同単元指導(両学年とも同じ単元を指導する方法)」で、外国語科は「学年別指導(学年ごとの学習内容を指導する方法)」で授業を行っています。また、ALTが年間20回程度来校し、1・2年生も教育課程外の時間を活用し、年間15時間の英語活動に取り組んでいます。

2つの指導法の長所と短所について

複式学級の場合、基本的には「学年別指導」で授業を行います。家庭科の調理実習や体育の器械運動などの学習においては、目標や評価の観点は別にして指導する「同単元指導」を実施することもあります。外国語活動・外国語科(以下、外国語)の授業におけるそれぞれの指導の長所及び短所は、以下の表の通りです。

	長 所	短 所
学年別指導	<ul style="list-style-type: none"> ●学年に応じた学習ができる。 ●学年の発達段階、教科や学習内容の系統性を踏まえやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ●教材の準備が大変。 ●児童数が少ない場合、学習を深めることが難しい。 ●デジタル教材を使うことで、もう一方の学年の活動を妨げてしまうことがある。 ●わたり&すらしが難しい。
同単元指導	<ul style="list-style-type: none"> ●協力的な学習ができ、交流を深めることができる。 ●評価の時間を確保しやすい。 ●共通の学習場面ができ、複式学級に一体感が生まれやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ●いきなりLet's Try! 2から指導する年度がある(系統性や順序性がくずれてしまう)。 ●学年差による既習事項の習得状況の違いを考えながら、授業を進める必要がある。

複式学級においては、教師がいない「間接指導」の場面を充実させるために、中心となって学習を進める児童(学習リーダー)を育てたり、指導計画を工夫したりするなどしています。しかし、外国語の授業においては、間接指導ができる場面が限られています。また、同じ教室で2つの学年が一緒に学習しているので、一方の学年が聞く活動や話す活動をしている時に、もう一方の学年が集中力を保って学習に取り組むことは非常に困難です。

外国語科における「学年別指導」

私は、2018年度は、5・6年生(5年生3名、6年生1名)の担任をしており、外国語科の授業は「学年別指導」で行いました。5年生が外国語科の時、6年生は別教室で教頭先生に書写の指導をお願いするなど、学年別指導ができるように指導体制を工夫しました。

しかし、6年生が1人だったため、同学年の児童とのやり取りや発表を通して、自己の学習を広げたり深めたりすることはできませんでした。単元の最後に将来の夢を発表したり、オリンピックで見たい競技について話したりする場面では、ALTや養護教諭などに協力してもらいました。



児童が3名いた5年生に対しては、Hi, friends!とWe Can! 1を併用しながら、授業を進めました。英語に対する興味・関心の度合いや能力差はかなりあ

りましたが、学年に合った内容を児童の実態に合わせて指導することができました。児童一人一人に合わせて、授業の流れを柔軟に変えて対応することができるのは、小規模校の強みだと思います。

外国語活動における「同単元指導」

2019年度は、3・4年生（3年生4名、4年生4名）の担任をしていました。外国語活動の授業は、*Let's Try! 1* で同単元指導を行っています。4年生は、前年度に *Let's Try! 2* を学習しています。本来4年生で学習する内容を3年生で学習することに備えて、1・2年生の時に各15時間、教育課程外の時間で外国語活動を実施しました。

①グループ活動

新出単語を扱った後、4人グループで新出単語に慣れるための活動を行っています。A4判の絵カードを1/8の大きさに印刷し、神経衰弱やミッシングゲームなど4～5種類の活動を行います。“Close your eyes. What's missing?”などのクラスルームイングリッシュを児童が使ったり、発音の仕方を児童どうしで教え合ったりすることができています。英語に慣れるだけではなく、仲間と協力しながら自主的に活動を進めることを目的に取り組んでいます。



②デジタル教材の活用

Let's Try! 1 Unit 8: What's this? では、クイズを出したり答えたりする活動を行います。児童は、3 Hints Quiz など、クイズの作り方を知らないため、PowerPoint を使って例題を作成し、クイズを実際に解きながらクイズの作り方を説明しました。その結果、

「大きなカテゴリーから小さなカテゴリーへ」「3つめのヒントで答えがわかるようにする」「みんなが答えの知っているものを扱う」など、問題を作る際のポイントを体験的に学ぶことができました。

③単元のゴールの工夫

Let's Try 1 Unit 5: What do you like? では、単元の最後に何が好きかをインタビューする活動が設定されています。インタビューした結果をもとに、ランキング作りをさせることで目的意識を高めることができると考え、単元のゴールを「〇〇ランキングを作ろう」としました。また、単元の最後の時間は、研究大会の日に行いました。人前で話すことが苦手な児童が多いのですが、英語で先生方とやり取りすることができ、満足感や達成感を味わわせることができました。



まとめ

外国語の授業を学年別指導で行うためには、児童たち自らが進められる活動は何かということを考えて間接指導の場面を設定しなければなりません。先に紹介したグループ活動や、アルファベットや単語の写し書きなどであれば、間接指導で行うことは可能です。しかし、そのためには、授業の展開を緻密に計画する必要があります。

また、コミュニケーション活動では、もう一方の学年と交流することで、自分の考えを広げたり深めたりさせることができます。活動の目的や評価規準を押さえる必要はありますが、学年別指導で授業を進めるのであれば、複式学級のよさを活かした指導を計画することが大切だと思います。



世界の国から Hello!



第4回 アメリカ編 大井美紗子

海外に住む方が、現地の小学校生活を中心に、暮らしぶりをレポート。第4回はアメリカ・アラバマ州に住む6年生の女の子の登場です。



ヒスパニック・ラテン系人口が増えているアメリカ

日本の約3倍の人口、約25倍の国土を擁するアメリカ合衆国。国が定める公用語はありませんが、実質上の公用語は英語です。約80%の人が、家庭で英語のみを使っています。英語に次いで使われているのはスペイン語で、多くの学校で外国語として教えられています。

国民の約73%はヨーロッパにルーツをもつ白人で、次に多いのが黒人、3番目がヒスパニック・ラテン系の人々です。特にヒスパニック・ラテン系の人口は2000年から2010年の間で約43%も増えており、今も増加傾向にあります。

今回登場するソフィー・モンテイロさんも、ラテン系の女の子です。お父さんとお母さんはブラジル出身で、家ではブラジルの公用語であるポルトガル語を主に使います。学校の先生や友だちとは英語を使い、加えてお母さんが日系ブラジル移民二世であるため、日本語もわかります。ソフィーさんのように3つも言語を操る子どもは稀ですが、英語以外の言語圏にルーツをもつ子どもが増えているのが今のアメリカなのです。



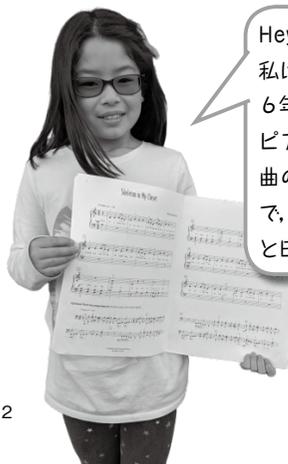
外国語よりも理系教育を重視

アメリカの一般的な義務教育期間は、日本でいう幼稚園年長から高校3年生までの13年間です。小・中・高の年数の分け方は地域によって異なりますが、ソフィーさんが通うアラバマ州マディソン郡の学校も含め、多くの地域では「小学校は1～5年生、中学生は6～8年生、高校生は9～12年生」と分けています。

アメリカにはさまざまなバックグラウンドをもつ人が集まっているため、すべての人に対応すべくサポートが整えられています。たとえば貧困層の家庭は優先的に公立学校に入れるようになっており、給食も無償で提供されます。学習障害や発達障害がある子ども、あるいはギフテッド（特別な才能がある子ども）へのプログラムも充実しています。学校へ通わせずにホームスクーリングを行う家庭も多く、家庭での学習も要件を満たせば義務教育として認められます。

カリキュラムで特に重視されているのが、STEM教育です。STEMとはScience（科学）、Technology（技術）、Engineering（工学）、Mathematics（数学）の頭文字を取った言葉で、2000年代から積極的に取り入れられるようになりました。科学やコンピュータの授業は、幼稚園年長から始まります。ソフィーさんの住む町にはNASAの研究所があるため、特に中高生になると、宇宙工学に携わるエンジニアからレクチャーを受けるなど実践的な知識を学ぶ機会が増えます。

外国語教育は、日本ほど重視されていません。英語さえできれば他の言語を話せなくても困らないから



Hey y'all! (やあ、みんな!)
私はソフィー・モンテイロ、
6年生。今はまわっているのは
ピアノで、これは習っている
曲の楽譜だよ。言語も得意
で、英語の他にポルトガル語
と日本語も使えるの。

でしょう。一方で「英語さえできれば」との考えから、親の母語がおろそかになってしまう移民二世・三世の子どもたちが増えたため、学校や小児科医から「親の母語を大切にしよう」「家では親の母語で話そう」という働きかけがなされています。

学校で朝ごはんを食べてから、授業開始

ソフィーさんは毎朝7時頃に家を出ます。朝7時なんてすいぶん早い気がします。学校で朝食が提供されるので、身支度だけしてスクールバスに飛び乗ればいいのです。授業は8時からスタート。午後3時にまたスクールバスで下校します。

学校ではパソコンやタブレットも使いますが、メインは紙の教科書です。ソフィーさんも紙の本が大好きです。いま夢中で読んでいるのは吸血鬼が主人公の『トワイライト』シリーズで、この本(写真)をいつもバッグに入れて持ち歩いています。学校では図書委員を務め、ブックフェアを開催して外部の人に本を販売したこともあります。



悩み多き？ 誕生日パーティー

アメリカの小学生が毎年心待ちにしているのが、誕生日です。ただ、「誕生日は友達を呼んで盛大に祝うものだ」という暗黙の了解があり、時にこれが精神的なプレッシャーになってしまいます。「誰を呼ぼうか」と悩んだり、「クラスメートのパーティーに招待されなかった」と落ち込んだり。近年ではいじめ防止や平等化のために、「誕生日パーティーを開く際は全員に招待状を送ること」とルール化しているクラスもあるほどです。

もちろん誕生日はおめでたいもので、多くの子どもは楽しんでます。「海賊」や「プリンセスの〇〇」などとテーマを決め、インテリアや服装を統一してお祝



●誕生日は年に一度の大イベント！クラスメートに招待状を出して、パーティーを開催します。

いすることもあります。パーティーに欠かせないのは誕生日ケーキで、趣向をこらしたホールケーキやカップケーキを用意して参加者全員で分け合います。

週末は教会、長期休みは海外へ

ソフィーさんの家庭はクリスチャンで、毎週日曜日は教会へ行きます。ソフィーさんの住むアラバマ州には敬虔なキリスト教徒が多く、毎週日曜の朝は大半の家庭が教会へ詰めかけるため、お店は閉まり、各教会周辺では交通整理のために警察官が出動します。

クリスチャンにとって最大のお祭りは、イースターです。キリストの復活を祝う祭日ですが、子どもたちはお菓子やおもちゃが入った卵を探すエッグハントのほうを楽しみなようです。



●毎年春に行われるイースター。ウサギに扮してエッグハントに興じるソフィーさんと妹、弟。

夏休みは5月末から7月末まで2か月間あり、ソフィーさん一家は毎年、ブラジルにあるお父さんの実家が日本にあるお母さんの実家のどちらかへ里帰りします。おじいちゃん・おばあちゃんと会い、自分のルーツである文化にふれられる長期休みが、ソフィーさんは1年で一番好きなのだそうです。

大井美紗子(おおい・みさこ)

1986年生、長野県出身。日本で単行本の編集者を務めた後、渡米を機にライター・翻訳業に。AERA dot.にて「ここがヘンだよ!日本の育児」連載中。二児の母。アメリカ南部アラバマ州在住。

③ ワークシート編

「単元のまとめ ワークシート」(左)と「授業用ワークシート」(右)を掲載しています。



「単元のまとめ ワークシート」 単元ごとに学習内容の確認ができ、評価に活かせる見開きのワークシートです。

「各学期のまとめ」および「学年のまとめ」のワークシートもあります。※本ワークシートの大判(A4判)のカラー版で、児童に1冊ずつ渡せる準拠教材『ONE WORLD Smiles ワークブック』があります(本ページ下部参照)。

「授業用ワークシート」 単元ごとに3～11枚収録。Activity コーナーなどの指導の際に使える記入用シートや、重要な語句や表現について「読むこと」「書くこと」の活動に取り組めるシートです。指導案中に明示していないものも含まれますが、実態に応じて授業内で、または宿題での活用も可能です。

④ DVD 編

授業に最低限必要な動画を単元ごとに収録したDVDです。

- ◎各単元の収録内容：冒頭の Let's Watch, 口慣らしのための Let's Say It Together, 単元最終活動のお手本として Final Activity の実写
- ◎単元外の収録内容：Classroom English, アルファベットの歌(2種類), アルファベットの書き順動画

⑤ 音声 CD 編(各学年7枚)

授業に活用できる音声を網羅して、7枚のCDに収録しています。『ワークシート編』掲載の「単元のまとめ ワークシート」のための音声もここに収録しています。

準拠教材 授業をよりスムーズに、効果的に行える準拠教材もご活用ください。

- ①『指導者用デジタル教科書(教材) ONE WORLD Smiles』(4年パッケージ版, 各学年 76,000円+税)
We Can! デジタル教材と同様に使えます。指導書『DVD編』、『音声CD編』の収録内容を網羅しており、ほぼ全ての活動で動画や音声を使って授業展開ができます。Activity や Let's Sing, Let's Read and Act の動画など、本製品のものに収録の活動も多数。下記『絵カード』収録内容も含まれており、印刷可能。
- ②『ONE WORLD Smiles 絵カード』(各学年で上・下の分売。各学年 15,000円+税)
各単元のご指導に役立つ絵カードを収録しています。A4判, 5年上下で325枚, 6年上下で270枚。表側はイラストと文字, 裏側は文字のみ。表裏ともに文字が4線上に示してあり, 手本として活用しやすい内容。
- ③『ONE WORLD Smiles ワークブック』(各学年 318円+税)
指導書『ワークシート編』の「単元のまとめ ワークシート」の大判(A4判)のカラー版で, カラフルな達成表, 別冊の教師用解説・解答付き。児童に1冊ずつ持たせることで, 確実に学習履歴が残ります。音声は指導書『音声CD編』に収録(弊社ウェブサイトからダウンロードも可能)。



主体的な学びをめざす 小学校英語教育

—教科化からの新しい展開—

小学校英語の教科化を踏まえ、「主体的な学び」をキーワードに、具体的な展開の仕方を提示する。

金森 強・本多敏幸・泉 恵美子 編著
A5判 / 216 ページ / 定価：本体 2,400 円＋税



低学年から始める 英語短時間学習

～すぐに使える
活動アイデアと単元展開～

低・中・高学年別の26の活動例で、音と文字の気づき、音声インプットなどに役立つ小学校英語短時間学習の活動アイデアと具体的な展開の仕方を紹介。

泉 恵美子・田縁真弓・川崎真理子 編著
B5判 / 168 ページ / 定価：本体 2,400 円＋税



教育出版

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-10 TEL: 03-3238-6965
https://www.kyoiku-shuppan.co.jp FAX: 03-3238-6999

こちらから
弊社サイトに
アクセスできます。



Smiles

表紙の絵から E (e) の文字から始まる英単語を探してみましょう。

Answer ear(s), egg(s), eight[8], eleven[11], English, eraser, eye(s)

以下のページで、配付用のワークシートもご用意しています。

アルファベット・ワークシート (教科通信「Smiles」表紙イラスト)



<https://www.kyoiku-shuppan.co.jp/textbook/shou/gaikokugo/wp03-smilecover.html>

小学英語通信 ONE WORLD 小学校英語応援マガジン Smiles [2020年春号] 2020年3月31日発行

編集：教育出版株式会社編集局

発行：教育出版株式会社 代表者：伊東千尋

表紙イラスト：クドウあや

印刷：大日本印刷株式会社

発行所：教育出版株式会社

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-10

電話 03-3238-6864(内容について) 03-3238-6901(配達について)

URL <https://www.kyoiku-shuppan.co.jp>



なかよし宣言

わたしたちをとりまく自然や社会は、科学技術の進展や国際化、情報化、高齢化などによって、今、大きく変わろうとしています。このような社会の変化の中で、人間や地球上のあらゆる命がのびのびと生きていくためには、人や自然を大切にしながら、共に生きていこうとする優しく大きな心をもつことが求められています。

わたしたちは、この理念を「地球となかよし」というコンセプトワードに込め、社会のさまざまな場面で人間の成長に貢献していきます。

- 北海道支社 〒060-0003 札幌市中央区北3条西3-1-44 ヒューリック札幌ビル6F
TEL: 011-231-3445 FAX: 011-231-3509
- 函館営業所 〒040-0011 函館市本町6-7 函館第一ビルディング3F
TEL: 0138-51-0886 FAX: 0138-31-0198
- 東北支社 〒980-0014 仙台市青葉区本町1-14-18 ライオンズプラザ本町ビル7F
TEL: 022-227-0391 FAX: 022-227-0395
- 中部支社 〒460-0011 名古屋市中区大須4-10-40 カジウラテックスビル5F
TEL: 052-262-0821 FAX: 052-262-0825
- 関西支社 〒541-0056 大阪市中央区久太郎町1-6-27 ヨシカワビル7F
TEL: 06-6261-9221 FAX: 06-6261-9401
- 中国支社 〒730-0051 広島市中区大手町3-7-2
あいおいニッセイ同和損保広島大手町ビル5F
TEL: 082-249-6033 FAX: 082-249-6040
- 四国支社 〒790-0004 松山市大街道3-6-1 岡崎産業ビル5F
TEL: 089-943-7193 FAX: 089-943-7134
- 九州支社 〒812-0007 福岡市博多区東比恵2-11-30 クレセント東福岡 E室
TEL: 092-433-5100 FAX: 092-433-5140
- 沖縄営業所 〒901-0155 那覇市金城3-8-9 一粒ビル3F
TEL: 098-859-1411 FAX: 098-859-1411

本資料は、文部科学省による「教科書採択の公正確保について」に基づき、一般社団法人教科書協会が定めた「教科書発行者行動規範」にのっとり、配付を許可されているものです。